

消化器内視鏡看護師が大腸がん検診・大腸内視鏡検査を勧めるワケ ～受診率向上へのアプローチ方法の検討～

特定医療法人社団 春日会 黒木記念病院外来

○松尾 真美、松川由美子、安東 篤子

【研究目的】

消化器内視鏡検査に従事している私たちは、日頃から検診・検査を受けてさえいれば早期に発見できたであろう症例をたくさん見ている。なかでも大腸がんは若年者から高齢者までがかかる病気であるといわれており、検診・検査を受けていれば早期発見・早期治療に繋がったかもしれないと考えさせられることが多い。しかし日本の大腸がん検診受診率は男女ともに45%以下に止まる。ではなぜ検診・検査を受けないのかと疑問に感じ、身近な医療従事者であるA病院職員を対象にアンケートを実施し受診率向上のための具体的なアプローチを検討したいと考えた。

【方法】

対象：A病院と関連施設に勤務する職員全員にアンケートを実施

アンケートは2016年がん対策に関する世論調査のデータを元に独自に作成し無記名での回答
研究期間：2020年1月～2021年1月

【結果】

対象487名、男性139名、女性282名、無回答66名、計487名。アンケート結果、大腸がん検診受診率は9.6%、CS検査率は21.9%であった。大腸がん検診を受けない理由は①自覚症状がない②恥ずかしい③辛そう④タイミングが合わない⑤費用がどのくらいかわからない⑥必要性を感じない⑦下剤を飲むのが大変そう⑧時間がないとの結果となった。

受けたことがあるがん検診割合は大腸がん9.6%、胃がん11.2%、肺がん3.2%、女性は子宮頸がん68%、乳がん40%、男性は前立腺がん2.1%であった。福利厚生の一環として大腸がん検診を受けることができるとしたらの問いに無料なら受けたい52.9%、有料でも無料でも受けたい27.2%、有料無料にかかわらず受けたくない13.1%であった。

【考察】

世論調査では「受ける時間がない」という理由が1位であったが今回の独自アンケート調査では「自覚症状がない」「恥ずかしい」「辛そう」が上位に挙がっている。このことから医療従事者であっても検診や検査の重要性が理解されず、正しい知識が認識されていないのではないかと考える。一方で検診・検査を受けたいが家庭の都合や勤務の都合がつかずタイミングが合わないという回答が多く、日程の調整をすることが大変であることが伺える。また世論調査・アンケートともに費用について負担を感じている人が多い。

【結論】

医療従事者に対してもがん検診や内視鏡検査について、正しい知識や情報を伝達していく必要がある。今後、勉強会や院内掲示物等を通じ継続して発信していきたい。